

#### 上海の金融機関ビル群

### 国有企業改革と銀行システムの変遷 -リスク管理の視点がより重要に

部だけでなく、30代半ばの研究者や

フもメンバーとして呼び込み、 金融に

人民銀行(中央銀行)の若手スタッ

性を検討させた。

金融改革の方向

当該委員会は、

関係政府部門の幹

岡嵜久実子 キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹

旧制度に捉われない、斬新な発想を

を加えたのは、

計画経済を追求した

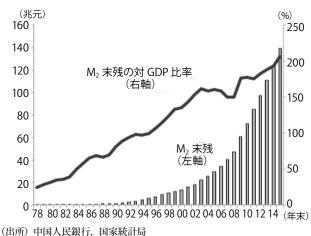
換を積極的に行った。委員会に若手ともに、国内外の専門家との意見交関する諸問題の実態調査を進めると

表員会は、金融改革の大目標として、①中央銀行が金融市場調節を自て、①中央銀行が金融市場調節を自在に行える体制を確立する、②中央銀行を中心に、多種類の金融機関が併存する金融システムを徐々に構築する、③多様な信用供与手段や融資ルートを発展させる、④金融機関にルートを発展させる、④金融機関に経営自主権を与え、自らの判断で責経営自主権を与え、自らの判断で責

(内閣) は金融制度改革研究小組(委とを決定した。これを受けて、国務院部からスタートさせた同国の経済制期三中全会)は、その5年前に農村期三中全会)は、その5年前に農村期三中全会)は、その5年前に農村期三中全会)は、その5年前に農村の要素を取り込んでゆくことを決定した。これを受けて、国務院とを決定した。これを受けて、国務院

# 金融改革の原点

#### 図1 中国のマネーサプライの推移



画経済から市場経済に漸進的に移 かったことを示しているのだろう。 ていたことと、 重要な課題として残されている。 なってきている。 しかし、 80年代に設 市場メカニズムもかなり効くように 時の4百倍近い規模に達し 金融セクターが提供する資金量は当 定された金融改革の目標は、今なお 30余年の時間を経た現在、 当時の目標設定が本質を突い その後の困難が大き 図 1 、 中 歯の

下で、金融という「市場経済の権化 いる人もあり、 のような機能を適切に拡充していく な部分になっているように思われる。 融制度改革を後退させない力の重要 任ある立場で、 手研究者として議論に参加したメン ていたのではないか。 するという経済体制改革の大方針 ーの中には、 しさは、当初の想像を大きく超え 改革の推進に当たって そのことは同国の金 現在、 なお、 政府部門の責 当時若

案し、 それらは党中央の方針として 理を行うようにさせることなどを提

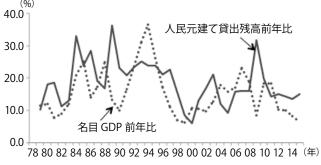
任をもって融資を実行し、

リスク管

# 有企業改革の負担のしわ寄せ

グ・システムで、 銀行としては人民 70年代半ばの中国はモノバンキン

図 2 中国の名目 GDP および貸出残高の推移 40.0



(出所) 中国人民銀行、国家統計局

は大きく 銀行貸出が急伸することも少なくな よび90年代の中国の経済成長の振れ などの協力を強く求められるように 支援のために、 を転換するための条例が制定され 分を国有銀行が担っていた。 策に呼応した資金供与のかなりの部 度化のための融資など、国の産業政 おいては、例えば紡績企業の設備高 かった。 経済制度改革の初期段階に 年に国有企業の経営メカニズム 国有銀行は国有企業のリストラ その動きにつれるように 利子減免、 債権放棄 また、

でも、 銀行一行が存在するだけだった。 れるようになり、 業務に特化した。 年から8年にかけて、 銀行を核とした間接金融優位の状況 ろっているが、 や保険会社をはじめ、市場経済国に 多種多様な金融機関の設立が認めら 形で設立され、 が再建ないし人民銀行から分離する 7割前後は、 である点に大きな変化はない。 あるような金融機関はひととおりそ (農業、中国、 非金融民間部門の資金調達 銀行貸出によって賄わ 同国の金融システムが 人民銀行は中央銀 現在では証券会社 建設、 80年代後半から、 4つの専業銀 工商銀 最

れている。 図2にみられるように、 80年代お

なった。

2002 年頃の国方商業銀行の不自信権の原因

衣 1 2002 年頃の国有冏耒載行の个民頃惟の原因	
不良債権の原因(銀行の自己申告ベース)	構成比 (%)
銀行自らの経営管理ミスによる	10.4
重複建設、環境汚染等への対応として国が設備の稼働 停止や施設の閉鎖等を命令した	9.4
国有企業の経営不振による	29.8
国の要請に応じた貸出条件の変更等による	6.8
国の指示に従って実行した政策性貸出が不良化した	32.4
地方政府の介入等による	11.2

(出所) 成思危 [2006]

#### 盐 4 苹 2 7 L 同の方

まった。	即後には深刻な資本不足に陥ってし	<b>罗額の不良債権を抱え、2000年</b>	<b>ような運営の結果、国有商業銀行は</b>	<b>忌識は乏しかった模様である。その</b>	で踏まえて組織を運営するといった	ており、それぞれの存在意義の相違	いった認識が関係者の間で共有され	凹じだし、利益の行き先も同じ」と	のものであり、究極の資金の出所は
<ul><li>町後には深刻な資本不足に陥ってしいものであり、究極の資金の出所はような運営の結果、国有商業銀行はような運営の結果、国有商業銀行はような運営の結果、国有商業銀行はような運営の結果、国有商業銀行はような運営の結果、国有商業銀行はのものであり、究極の資金の出所はのものであり、究極の資金の出所はのものであり、究極の資金の出所はのものであり、究極の資金の出所はのものであり、究極の資金の出所はのものであり、究極の資金の出所はのものであり、究極の資金の出所はのものであり、究極の資金の出所はのものであり、究極の資金の出所はのものであり、究極の資金の対象を表している。</li></ul>	<ul><li>&gt;額の不良債権を抱え、2000年</li><li>&gt;方な運営の結果、国有商業銀行は</li><li>おり、それぞれの存在意義の相違</li><li>と踏まえて組織を運営するといった</li><li>と踏まえて組織を運営するといった</li><li>と踏まえて組織を運営するといった</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の</li><li>会の<td>ような運営の結果、国有商業銀行はいものであり、究極の資金の出所はいった認識が関係者の間で共有されいった認識が関係者の間で共有されいった認識は乏しかった模様である。その 思識は乏しかった模様である。その</td><td><ul><li>意識は乏しかった模様である。そのでおり、それぞれの存在意義の相違いった認識が関係者の間で共有されいった認識が関係者の間で共有されい。</li></ul></td><td>を踏まえて組織を運営するといったいった認識が関係者の間で共有されいった認識が関係者の間で共有されいがあるであり、究極の資金の出所はのものであり、究極の資金の出所は</td><td>ており、それぞれの存在意義の相違いった認識が関係者の間で共有されいった認識が関係者の間で共有されいものであり、究極の資金の出所は</td><td>いった認識が関係者の間で共有され回じだし、利益の行き先も同じ」とのものであり、究極の資金の出所は</td><td><b>问じだし、利益の行き先も同じ」とのものであり、究極の資金の出所は</b></td><td>のものであり、究極の資金の出所は</td><td></td></li></ul>	ような運営の結果、国有商業銀行はいものであり、究極の資金の出所はいった認識が関係者の間で共有されいった認識が関係者の間で共有されいった認識は乏しかった模様である。その 思識は乏しかった模様である。その	<ul><li>意識は乏しかった模様である。そのでおり、それぞれの存在意義の相違いった認識が関係者の間で共有されいった認識が関係者の間で共有されい。</li></ul>	を踏まえて組織を運営するといったいった認識が関係者の間で共有されいった認識が関係者の間で共有されいがあるであり、究極の資金の出所はのものであり、究極の資金の出所は	ており、それぞれの存在意義の相違いった認識が関係者の間で共有されいった認識が関係者の間で共有されいものであり、究極の資金の出所は	いった認識が関係者の間で共有され回じだし、利益の行き先も同じ」とのものであり、究極の資金の出所は	<b>问じだし、利益の行き先も同じ」とのものであり、究極の資金の出所は</b>	のものであり、究極の資金の出所は	
同じだし、利益の行き先も同じ」と同じだし、利益の行き先も同じ共有されいった認識が関係者の間で共有されいった認識が関係者の間で共有されいった認識が関係者の間で共有されいった認識は乏しかった模様である。その意識は乏しかった模様である。その意識は乏しかった模様である。その意識は乏しかった模様である。その意識は乏しかった模様である。その意識は乏しかった模様である。その意識は乏しかった模様である。	を踏まえて組織を運営するといった といった認識が関係者の間で共有され におり、それぞれの存在意義の相違 におり、それぞれの存在意義の相違 におり、それぞれの存在意義の相違 におり、それぞれの存在意義の相違 におり、それぞれの存在意義の相違 におり、それぞれの存在意義の相違 におり、そのが、といった は変しかった模様である。その は変しかった模様である。その は変しかった模様である。その はずるといった	まうな運営の結果、国有商業銀行は のものであり、究極の資金の出所は のものであり、究極の資金の出所は いった認識が関係者の間で共有され におり、それぞれの存在意義の相違 と踏まえて組織を運営するといった 意識は乏しかった模様である。その 意識は乏しかった模様である。	<ul><li>意識は乏しかった模様である。そのとこさいた。</li><li>でおり、それぞれの存在意義の相違におり、それぞれの存在意義の相違におり、それぞれの存在意義の相違におり、それぞれの存在意義の相違におり、それぞれの存在意義の出所はのものであり、究極の資金の出所はのものであり、究極の資金の出所はのものであり、究極の資金の対象を表している。</li></ul>	を踏まえて組織を運営するといったいった認識が関係者の間で共有されいった認識が関係者の間で共有されいった認識が関係者の間で共有されい。	ており、それぞれの存在意義の相違いった認識が関係者の間で共有されいった認識が関係者の間で共有されのものであり、究極の資金の出所はのとのといい。	いった認識が関係者の間で共有され同じだし、利益の行き先も同じ」とのものであり、究極の資金の出所は何企業も、国有銀行も、いずれも国	回じだし、利益の行き先も同じ」とのものであり、究極の資金の出所は何企業も、国有銀行も、いずれも国	のものであり、究極の資金の出所は骨企業も、国有銀行も、いずれも国	<b>旬企業も、国有銀行も、いずれも国</b>

にかけて、

4行の資本金を財政資金

業銀行の建て直

しを優先課題に据え

そして、

翌年から 2000

年

要性を認識した中国政府は、

国有商

金融システムが健全であることの重

年のアジア金融危機によって、

商業銀行の建て直

たん回復したものの、

2

3年後に

#### 図3 主要上場商業銀行の税引前利益の推移

(%) 3.0 18,000 株式制銀行8行の利益(左軸) 16,000 型商業銀行 5 行の利益(左軸) 2.5 14,000 行の利益の対名目 GDP 比率(右軸 2.0 12,000 10,000 1.5 8,000 1.0 6,000 4,000 0.5 2,000 0.0 99 15 (年) 01 03 05

について、 は政府支援実施前と大差のない状況 とみなしていた(表1)。 応じた国有企業支援の影響が大きい 良債権比率が再び20%を超えた理由 に戻ってしまった。 銀行サイドは、 国有商業銀行の 国の政策に

の改善が喫緊の課題となった。 の競争に備え、 ると約束していたため、 年以内に銀行業を完全に対外開放す (WTO)に加盟したが、 中国は01年12月に世界貿易機 主要銀行の財務内容 外国銀行と 加盟後5 そこ

で専門買取り機関

(資産管理公司、

A M C

に引き取らせた。

国有商業銀

行の財務内容はいつ

割以上に相当した不良債権を、

簿価

で補充するとともに、貸出残高の2

対象に、 A M C で、 銀行4行に交通銀行を加えた5行を 策支援に乗り出し、 での株式上場を目指させた。 同国政府は3年から2回目 への移管を認め、 公的資本注入と不良債権の 従来の国有商業 さらに香港 の政

や国有企業は、 促すためであった。 場のチェックを受けさせることで、 採用したのは、 透を目指す銀行制度改革に抵抗 有商業銀行に抜本的な意識改革を ちであったため、 また、 その

も、政府の奨励に応じて、 ぐ資産規模を有する株 頃 た。 株式を上場させた。 式制商業銀行のうち8行 株式を上場させた。 5行は香港と上海に 05年から10年にかけ 玉 有商業銀行に次 同じ

場銀行 は 見え始めている ここにきて変調の兆しが に収益を上げ続けたが 株式上場後、 行収益伸び悩みの主因 (13 行 (図 3)。 は順調 主要上

改革を促す触媒として海外 国内よりも厳しい市 市場メカニズムの浸 地方政府 上場を じが 玉

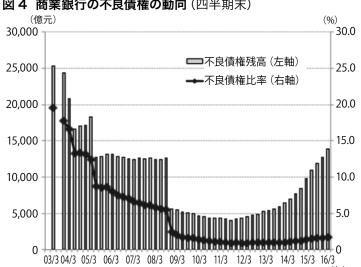
力を排除する狙いもある

中で、 ている。 動産バブルがはじけ、 地域によって程度は異なるものの、 加させてしまう可能性が高い。 さらに近年は、 金利を引下げ、 後退すると見込まれる中、 は ないとの報道もある。 収に影響が及んでいる事例が少なく 債権放棄を求められ、 その調整過程では銀行が利子減免や 過剰生産能力の問題に直面しており た財テク商品やインターネット金融 方向への圧力が強まる可能性が高い を巡る銀行間の競争が激化し、 長の終焉とともに企業の資金需要が による預金類似商品が次々と登場 短時間では変化しないだろう。 中国の工業セクターは深刻な 預金金利上昇の圧力が強まっ 方、経済成長が鈍化する 預金金利を引上げる 証券投資などを絡め こうした状況 銀行の債権 不良債権を増 優良顧客 貸出 不 口

#### リスク管理のバランス「金融の実体経済への 中国の今次五カ年計画 16 20 貢 献 ع

### では、 国有企業改革に関しては、 车 多

#### (出所) 各行財務報告 図 4 商業銀行の不良債権の動向(四半期末)



(注) 03、04年中は、国有商業銀行と株式制商業銀行のみの計数。 (出所) 中国銀行業監督管理委員会

資 金利鞘 (資金運

時的な現象ではないとみられている。

資金利鞘については、

高度経済成

引当金の増加で、 と不良債権増

市場ではこれは

用金利と資金調達金利の差)

の縮

(図4)を受けた貸倒

が不可欠であろう。一方、金融制度 増強するとともに、競争力の劣る企 岐にわたる項目の中に、企業活力を とが掲げられた。 クを効果的に防止し、管理する」こ 力を向上させる」ことや、「金融リス た、経済構造転換をサポートする能 経済に貢献する効率を向上させ、 改革の大目標としては、「金融の実体 達成のためには、 せるといった目標が含まれた。目標 業を秩序立った形で市場から撤退さ 金融面からの支援

ためには、リスク管理体制の整備が に触れ、金融が実体経済に貢献する した。銀行業監督管理委員会も、 ていた構造矛盾や体制上の問題など るにつれ、高速成長によって蓋をされ が高速成長から中高速成長に移行す 重点について解説した際、「中国経済 **公前提であると主張している。 人民銀行・周小川行長は、昨年11** 金融リスク管理の重要性を強調 徐々に表面化してきた」と指摘 五カ年計画中の金融制度改革の

~2000年)に1・6倍、 GDP は第9次五カ年計画中(96 和することもできた。中国の名目 おかげで、 集中処理時には、高度経済成長の 00年前後の国有銀行の不良債権 債権償却等の痛みを緩 10 次

> 場の目に晒されている以上、債権放 はない。ただし、上場銀行として市 できている。従って、企業の債務負 伸びが鈍化したとはいえ利益を計上 奨励)を受けて不動産価格が高騰し、 さくなった。また、好景気の下では、 拡大した。 こうした中で、 AMC に 計画中(01~05年)には1・9倍に 棄等の支援要請に応じるには、 担削減に協力する余地がないわけで 分な貸倒引当金を有しているほか うな「幸運」はあまり期待できない。 という状況もあった。今後はそのよ 担保不動産の処分を進めやすかった 同時期には住宅政策の大転換(持家 容易であったと言われている。さらに、 業の営業権譲渡や機械設備の売却が 新規ビジネス参入者も多く、 移管された不良債権額は相対的に小 主要商業銀行は、目下のところ十 国有企

# 期待される役割過剰生産能力の削減と銀行に

る

参加者に説明可能な理由が必要であ

とつになっている。中国の経済、 過剰生産能力の削減が重要課題のひ 今年の政府経済運営においては、 金融に関する政策の基本方針 決定する中央財経領導小組

強)」に重点的に取り組むことを確認 国家主席)は、今年5月の会議にお プレッシャーがかかる可能性が高い。 行に移される過程では、商業銀行に トの引下げ、『一補』は弱点分野の補 過剰債務の削減、『一降』は生産コス いて、当面、共産党と政府は「三去 (トップは習近平・共産党総書記兼 した。この方針が政策措置として実 降一補(『三去』は、生産能力、在庫 すでに今年4月、人民銀行と銀 証券、保険の3監督委員会が連

起こそうとする動きに対し、創業融 引き上げを含む)、②企業の過剰債 成長が期待できない企業からの融資 業の過剰生産能力削減に対する金融 名で通達を出し、鉄鋼および石炭産 資の道を開くこと、⑤輸出や海外進 成すること、③再建可能な企業につ 務削減につながる直接金融市場を育 連融資は、対象によって条件に差をつ している。また、銀行に対し、不良 出をサポートすること、などを奨励 や関連企業が新たな有望ビジネスを 適切に応じること、④リストラ人員 企業の吸収合併向けの資金需要にも いては債務リストラに協力する一方 けて実行すること(製品の質が悪く 面からの支援方針を公表した。 通達 金融機関に対し、①設備投資関

> 債権の償却を先延ばししないことや、 をすることなども求めている。 不良債権証券化の実現に向けた努力

う対処に果敢に取り組んでゆく決意 所在を正確に把握し、リスクに対す りし、結果として問題をさらに深刻 ろう。なお、日本の経験では、企業 る」という目標は、経済合理性にか を鈍らせないことが、 る認識を共有したうえで、痛みを伴 あった。政府、企業、銀行が問題の にしてしまった、 というようなことが み、景気回復を期待して対応を先送 おいて、関係者が問題の大きさに怯 の過剰債務と銀行の不良債権処理に が役に立つはずで、民間資本や民営 なっていなければならない。そのため めには、「金融が実体経済に貢献す 企業の力を取り込むことも有効であ には、 市場メカニズムを活かすこと 持続可能な経済成長を実現するた 極めて重要で

## 《参考文献

周小川(2015)「深化金融体制改革 論中国商業銀行的改革』経済科学出版社 成思危主編(2005)『路線及関鍵 体制発展六十年』中国金融出版社 劉鴻儒等(2009)『変革―中国金融 『中国金融』2015 年第22期